

大分教育事務所訪問②-69 (計142) 大分市立戸次中学校に学ぶ 学校経営から学ぶ



学校の教育目標「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かで実践力のあるたくましい生徒の育成」を達成するために、「『すきです戸次中』～ 自慢できる学校～」をスローガンに掲げ、「全校生徒を全教職員で育てる」ことを意識し、組織的な取組を推進しています。

そのため、学校経営計画表のそれぞれの取組項目には、教職員が行う取組指標と生徒の姿である数値目標（検証指標）を定め、それぞれの成果と課題を明らかにしています。同様に、教職員の時間外勤務についても月だけでなく、2～6ヶ月の数値を見える化することで、職員の意識改革を行っています。

今後は、協議の際に確認した「自分で考えて他人に伝える力」のように、学校をあげて育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を明確にされてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることが出来ます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながると期待されます。

参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 pp48—53 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア 言語能力」



NO.629 2021年12月 大分市立戸次中学校

声を聴く

しっかり聴いてくれる相手がいるから、思いっきり話することができる。



NO.627 2021年12月 大分市立戸次中学校

あきらめない

ボールを追う人。つなぐために行動を起こす人。あきらめない気持ちで、みんなを動かす。



NO.628 2021年12月 大分市立戸次中学校

ICTと学び合い

タブレットは、人と人をつなぐ道具の一部。そして、学び合うから気持ちが通じる。

授業から学ぶ

全学級の授業を参観させていただきました。戸次中学校絆宣言にもあるように、どの学級も温かい雰囲気にあふれ、タブレットを使用する中にも自然と学び合う姿がとても印象的でした。特に、2年2組国語の板書からは授業の流れがよくわかり、1年1組英語ではICTと思考ツールと学び合いを効果的に行うことで、本時のねらいに迫る授業でした。

今後は指導案を作成する際、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして表記してみてはいかがでしょうか。教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善が推進されると思いました。

